

2024 年度事業計画

I. 調査研究部門

基本方針

情報通信技術の進展や健康志向、コンプライアンス志向の高まりなどに加えて、COVID-19 との共存、社会環境の変化は人々の価値観、人間関係、消費行動や個人の嗜好に大きな影響を及ぼしていると考えられる。それに伴い、たばこを始めとする酒、茶、コーヒーといった様々な嗜好品の社会的位置づけも変化している。これらたばこを始めとする嗜好品に関する諸情報と関連する社会の動きを読み解き、嗜好品の個人的・社会的・歴史的な存在の意味を考え、その研究成果を提供していくことの必要性はますます高まっている。TASC はこれに応えるため、たばこを始めとする嗜好品を手がかりに、現代における人間の嗜好、心理、欲求、価値観、行動及び個人と社会との関わり等について、心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究を継続的に実施する。また、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施する。調査研究によって得られた成果については、学会発表、論文投稿を行い、あわせて、これに関する考察を財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて、より一層の効率的な事業運営のもと広く普及啓発を図る。

1. 調査研究事業

2024 年度に計画する主な調査研究は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

TASC が実施してきたこれまでの心理学及び社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する両領域の研究成果については、学会発表や学会誌への投稿を行う。

(2) たばこを始めとする嗜好品の価値研究

嗜好品に関する個人や社会の嗜好、価値観、行動等に着目した基礎的な研究として、たばこの価値構造を整理し、たばこ及び他嗜好品に対する心理的効果に関する調査を実施する。また、外部の研究者を交えて本調査に関する研究会を開催するとともに、機関誌・刊行物やウェブサイトにおいて積極的に普及啓発を行う。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

TASC に蓄積されたたばこ史に関連する資料を踏まえ、在野の研究者や大学等研究機関の研究者との連携を強化し、たばこ史についての研究を行う。

(4) 研究関連情報の整備

参考文献や研究報告書等、たばこを始めとする嗜好品に関する諸情報について研究関連業務への効果的な活用を図るため継続的な資料整備を実施する。

2. 研究助成事業

たばこを始めとする嗜好品に関する人文・社会科学等の分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的として、日本国内の大学・研究機関等に所属する研究者を対象に研究助成を実施する。研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し、国会図書館に納本するとともに、TASC ウェブサイトで公開する。

なお、たばこに関する研究助成の拡張を図るため、たばこに関する研究に対し適切な助言・指導が可能な研究審議員を追加する。

3. 普及啓発活動

普及啓発活動は調査研究活動の成果や嗜好品に関する考察等を広く国民に提供する目的で実施するものである。

2024 年度に計画する主な普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

① 「談」

様々な分野の研究者・有識者へのインタビューを通じて、時代と共に変化する社会の大きな流れを読み解き、次の時代を生きる価値観を模索するための研究誌として、年間3回発行する。

② 「TASC MONTHLY」

様々な分野の研究者・有識者による、たばこを始めとする嗜好品に関わる論考やエッセーを掲載すると共に 調査研究・助成研究に対する成果の共有、財団の活動状況報告等を掲載する機関誌として、毎月発行する。

③ 「たばこ史研究」

大学等研究機関の研究者及び在野のたばこ史に関する研究者の論文等の発表の場として、年間2回発行する。

④ 「2023 年度事業概要」

2023 年度の TASC の事業活動状況をまとめた冊子を発行する。

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

定期出版物の最新情報や調査研究の実施情報・結果、研究助成の情報、その他 TASC に関する情報を適時発信する。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題を研究領域としている学識者を探索する。

II. 博物館事業部門

【重点項目】

2026年度までを目途とする中期計画に基づき、更に魅力ある企業博物館を目指して、その役割・機能の一層の充実を図る。

1. 博物館機能の充実

- ・ 特別展・コレクションギャラリーを活用したたばこ及び塩の歴史・文化の発信を進める。
- ・ 収蔵庫の整理及び各種アーカイブの整備を図る。
- ・ 研究テーマ及び特別展のあり方等について継続的な検討を行う。
- ・ JTとの協業体制を維持し、人材育成及び博物館において伝承すべき機能の補完・充実に取り組む。

2. 安定的な事業運営

- ・ コスト意識を持ちつつ、メリハリある資源配分により計画性ある運営を行う。
- ・ 職員のワーク・ライフ・バランスを重視した職場環境の改善を図る。

3. 効率的な広報活動の展開

- ・ 若年層をターゲットとした SNS 等の Web 展開を含め、タイムリーかつ有効なメディアを活用した広報活動を実施する。
- ・ 特に、SNS については、危機管理下において有効な発信手段として位置づける。

4. 地域社会との良好な関係維持

- ・ 行政及び近隣社会との良好な関係を維持しつつ、他博物館との連携を強化する。

【事業活動】

来館者満足度の一層の向上を図るため、来館者や社会的ニーズ・動向を的確に捉えた事業運営に努める。

1. 調査・研究活動

- ・ これまで取り組んできた「たばこと塩の歴史と文化」及び「収蔵資料」に関する調査研究という2大テーマは継続しつつ、産業・企業系博物館のあり方等の新たなテーマも取り入れながら実施する。

2. 情報発信活動

(1) 特別展

- ・ 4回開催する。

(2) イベント・講座

- ・ 古文献・古文書を読む会（毎月）、たばしお講座（5回程度）、たばしお寄席（2回程度）及び塩の実験イベント（夏季以外の3日程度）を開催する。

(3) 刊行物

- ① 年報（第 39 号（2023 年度版））
- ② 特別展と連動した写真集（写真家：片平孝「塩の世界」）

(4) 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ・ 定期的な展示替として、江戸時代のたばこ文化コーナーを 6～7 回程度、コレクションギャラリーを 3～5 回程度行う。
- ・ 特別展の内容に則した講演会や映画会を実施する（土・日曜、祝日等）。
- ・ 図書閲覧室の円滑な運用を行いつつ、図書資料データの入力及び配架整理作業等を進め、情報発信機能を一層強化する。
- ・ 団体見学者への展示案内や、多様な来館者へのサービスのあり方について、バリアフリーを意識した施策を行う。

(5) 周知・PR

- ・ 当館の事業活動や所在地等の周知・PR について、DM、マスコミへの情報発信、有料広告や SNS 等の様々な媒体を戦略的に活用する。
- ・ 当館のホームページの定期的な更新を行いつつ、サイト全体のレスポンス化を検討する。
- ・ 自然災害やその他の緊急事態の状況下においても、その時々に応じて SNS 等を積極的に活用する。

3. 資料収集・整理・保存

- ・ 収蔵庫の整理・データベース化の推進により、収蔵資料の保管・管理体制の確立を進めるとともに、博物館に即した IPM（総合的有害生物管理）体制を堅持する。
- ・ 寄贈資料は、適切なレファレンスを行った上で、資料検討会で受入の要否を判断する。また、資料購入は優先度・必要度が高いと評価した資料に対して行う。
- ・ ポスター・パッケージ等の収集については、実物資料やデータの収集をシステム化することで効率的に実施する。
- ・ 資料の良好な保存のため、収蔵庫の計画的な補修を行う。

4. その他の活動

(1) 人財の育成・強化

- ・ 職員の教育・研修ならびに学芸員の採用活動を実施する（採用は 2025 年 4 月）。

(2) 総合案内・ミュージアムショップ

- ・ 来館者の満足度向上に資するサービスや商品ラインナップの探索・充実を図る。

(3) 地域との協調

- ① 墨田区周辺の地域博物館、企業系博物館・資料室との連携
- ② 「東京・ミュージアム ぐるっとパス」（東京都歴史文化財団）への参加継続
- ③ 墨田区をはじめとした官公庁等との良好な関係の維持

(4) 博物館実習の受け入れ（6 大学、各校 1 名）